s 第 43 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	市野ゼミⅢ	チーム名	hungry+
タイトル	FD は大学の質を高めるのか？		
テーマ群	(a)理論・情報経済学　(c) 公共経済		
メンバー	樹梨奏美　田邊祐佳　永井圭子　長谷川貴央 浜本夏実　藤川よう子　宮西聡　渡辺朝子		
研究計画内容	現在、高等教育への進学率が上昇している。これにより、大学では大衆化・学生の多様化が進んでいる。そのため、学習意欲の高い学生はもちろん、学習意欲の低い学生まで、幅広い学生が存在するようになった。それにもかかわらず、教員はその多様化された学生のニーズに対応した授業ではなく、従来通りの教員中心の授業を進めている。その結果、学生のニーズに応えていない授業に対して、学生の不満が募っており、学生と教員との授業に対する意識の差が深刻化している。今大学には学生と教員との授業に対する意識の差を埋めるような授業改革が求められている。 そこで日本の大学では近年、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組を意味する FD（ファカルティ・ディベロップメント）が注目されるようになった。 FD は 2007 年まで大学にとって実施に努めなければならない努力義務であった。法的に義務化されたのは 2008 年からである。これを受け、2008 年には FD 実施している大学は 97%に達した。 この数値が示すように、ほぼ間違いなく日本の大学は FD 活動を行っているが、我々は大学生活を過ごす中で授業に対する大きな変化を感じたことはなかった。そもそもこの研究を始めるまで、FD という言葉さえ知らなかった。これより FD が大学においてあまり機能していないように思える。しかし FD が機能しているかは、我々の直観的な感想だけでは測れないと考える。 そこで我々は FD が大学の質を高めているのか実証的に分析する。具体的には甲南大学の授業改善アンケートのデータを活用しどのような FD 活動が学生の授業満足度を高めているのか分析する。また近畿地方の大学 150 校を対象に各大学のホームページから FD 活動の情報を集め、FD 活動の活発さを表す独自の指標を作成し、これを用いて FD は大学の質を高めているのかを検証する。これら分析結果から我々は、大学の質を高めるのにどのような FD 活動をするべきか政策提言をする。		